

POINT 1
態度

学ぶ意欲を高める仕掛け

社会科で学ぶ内容は、自分たちの暮らしやこれからの生き方とつながっている。このことを意識して授業をデザインすることで、学ぶ意欲を高めることができるのではないだろうか。

4 学年社会科では、「ごみのしやりと利用」について学ぶ。私たちの生活とごみ問題は密接なつながりがあるが、ごみは出してしまうと収集車が回収してくれるので、子どもたちはその後どのような処理をたどるのか詳しく知る機会ほとんどない。

さらに、生活が豊かになるにつれてごみの排出量が増え、処理することの難しさが社会的な問題になっていることに触れる機会も、ほとんどないのではないだろうか。

そこで、学んだ内容を単なる知識の枠にとどめることなく、実生活とのつながりやこれからについて考える力を養うための授業デザインの一例を紹介する。

1 社会の問題に触れる機会を増やす仕掛け

朝の会の 1 つのコーナーとして、ニュース発表を行うようにしたところ、海洋プラスチックごみの問題が紹介された。そこで、魚が誤って食べることをないポリ袋を開発するビジネスプランを神奈川県の高校生が提案した事例を紹介したり、ごみ清掃員でお笑い芸人のマシンガンズ・滝沢秀一さんの『すごいゴミのはなし』を学級文庫に置き、清掃員の苦労や思いに身近に感じられる機会を設けたりすることで、社会課題に触れるきっかけをつくった。

これらのことから子どもたちは、ごみが適切に処理されていない状況があることに気づき、



こんなことをするなんて
ひどい！

自分たちの住んでいる地域
ではどうなんだろう？



という考えをもつようになっていった。

2 「なぜ？」「どうして？」を生む仕掛け

「海に浮かぶプラスチックごみ」「松江市の海岸に流れ着いたごみ」「ガーナの電子ごみの墓場」の 3 つの写真を提示すると、



このごみはどこから来て、
誰が捨てているの？

という疑問をもたせることができるが、地域の実態に合うように授業内容をアレンジすることで、より学ぶ必要感が生まれるだろう。

例えば、住んでいる自治体のごみ袋や分別の仕方について調べ、「どうしてここまで細かい分別が必要なのか」を考えることで、リサイクルの具体的な内容や、それをどのように実施しているのかに対する疑問を出すことができる。

このように、「なぜ？」「どうして？」を生む仕掛けをすることで、子どもが知りたいと思う意欲をもち、学習に主体的に取り組む姿勢が育っていくのではないだろうか。

ついて考える力を養う授業デザイン

足寄町立足寄小学校 教諭 川上 慶祐



POINT 2 思・判・表

深い学びにつなげる学習過程の工夫

「自然災害からくらしを守る」の単元では、過去に発生した自然災害を題材として、どのような被害が起こったかを知り、どのような準備や対策が必要なのかについて学習する。

地震は、子どもたちにとって身近な実感が湧きづらい自然災害の1つではないだろうか。地震に対する備えを自ら考えられる力を付けるためには、具体的な被害想定を知り、自分事として捉えることが重要であると考えます。

1 想定される被害について知る

「想定地震地図」を見ながら、自分の住んでいる地域で、どのくらいの震度の地震が起こりうると想定されているのかを知るところからスタートした。その上で、大きな地震が起こった際に想定される具体的な被害について考えを出し合い、整理するようにした。

2 災害発生時の状況を具体的に考えさせる

「防災小説」を小学生向けにアレンジし、「災害発生の日時」「何をしているときなのか」「どんな気持ちになってくるのか」など、具体的に想像して書くよう

- ① そのときは、何時ですか？
何をしているときですか？
季節はいつですか？
- ② 災害が起こったとき、どんな気持ちになっていますか？
- ③ 家族は何をしていますか？
- ④ 家族とどんな話をしていますか？
- ⑤ 家の周りは、どんな様子になっていますか？
- ⑥ 助かるためにはどうすればいいですか？

【防災小説のワークシート項目】

にした。このように自分事として捉えた後、「ど

んなふうに行動することが必要な？」と発問し、意見を交流した。

3 避難した後の生活を具体的にイメージする

災害発生後に直面するのは、避難所生活の困難さであろう。



地震発生後、小学校に避難することになり、たくさんの方と生活することになりました。どんなことが大変になると思いますか？

水や食料が足りるかな？



もし、冬に地震が発生したらどうするのかな。電気が使えなくなるとストーブも使えないよね。

この大変さに気付くことで、備えておくべきものが具体的に浮かび上がってくるだろう。子どもたちの意見を整理しながら、学校の防災倉庫や、町役場にも備蓄があること、災害発生時の対応や連携のあり方について取り決めがあることを学ぶようにした。これにより、自助・共助・公助について深めることができるだろう。

また、学んだことを他教科や日常の活動と関連付けて多様に展開することも重要だと考える。避難訓練や「防災の日」など、考える機会を仕掛けることで、深い学びにつなげていきたい。